

With you

特集

機能回復を支える

リハビリテーション • P.02



CONTENTS

P.06

安心！充実！大学病院での出産

P.07

手外科センターが開設されました

※表紙写真：リハビリテーションを支えるメンバー



みなさん「リハビリ」と聞くと、病气やけがをしたときに受ける苦しい、つらい、痛い訓練！というイメージがあるのではないのでしょうか。

リハビリテーションとは、ラテン語の re(再び)habilitis(適した)を語源に持ち「再び適し

た状態になること」「本来あるべき状態への回復」という意味を持つもので、リハビリテーション対象の患者さんが、住み慣れた場所で、自分らしく安心していきいきとした生活を送れるようにするための様々な取り組みすべてを含んだ言葉なのです。

当院では、患者さんの身体的・精神的・社会的・職業的・経済的な側面を考慮し、患者さんを中心に、すべてのスタッフが一丸となってリハビリテーションに取り組んでいます。

当院のリハビリテーション科は、医師(3名)・理学療法士(12名)・作業療法士(4名)・言語聴覚士(2名)で構成されています。それぞれどのような仕事や役割を持ち、どのような思いをもってみなさんのリハビリテーションを行っているのか、簡単に説明します。



運動機能回復の専門家
理学療法士

理学療法士は、運動機能や生活機能が損なわれているかたがたに対して、起き上がる、座る、立つ、歩くなどの生活に必要な基本動作の回復や維持、悪化の予防を目的とし、自立した日常生活が維持できるように支援する専門職です。脳血管疾患や運動器疾患、呼吸器循環系疾患、膠原病、小児疾患等、様々な病气を持つ患者さんを対象にしています。



患者さんの症状や課題に応じた状態で身体機能を適切に評価し、運動機能改善するための最適な治療を提供します。また、自宅へ帰るために必要な住宅改修や、福祉用具を検討するのも理学療法士の仕事のひとつです。現在、全国の理学療法士数は15万人を超え、その活動の場は医療機関や福祉施設にとどまらず、教育やスポーツの分野、在宅など多岐に渡ります。

当院では、2018年までは入院中の方と一部外来の方を中心に理学療法を提供していましたが、2019年1月より訪問リハビリ、3月からはさらに、デイケアでも質の高い理学療法を提供してまいります。

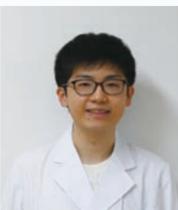


若手Drに
interview

リハビリテーション科医を志した理由を聞きました

医学部を卒業した後に行う初期研修の間に、印象に残っている症例があります。その方は、入院時は歩行困難でありましたが、入院中の薬物調整と運動療法により、ADL(日常生活を送るために最低限必要な動作)は向上し、ご自分の足で自宅に帰られました。退院日には、リハビリテーションを行なった廊下を見て、とても明るい顔で「この廊下は希望の道や」と私におっしゃいました。

自分の足で歩くという事は、生活の質を支える大切な能力であり、人に幸福感をもたらし得るという可能性に気付いた瞬間でした。そして、多くの患者様とこの幸福を共有したいと強く思い、専攻を決めました。まだまだ、未熟者ですがよろしくお願ひ申し上げます。



name
リハビリテーション科
専攻医
武内 孝太郎 先生

リハビリテーション医療の特色は、病気に對しての介入だけでなく、ひとりの患者さんに対して多職種で診療にあたり、環境や社会資源をフル活用し入院中から退院後の生活での場面で患者さんをサポートできることが、最大の魅力であり強みだと考えています。ご家族や社会背景も踏まえ、患者さんに寄り添い生活の質の維持・向上ができることに魅力を感じ、リハビリテーションを専門にすることを決めました。

日本ではリハビリテーションの需要は高まっており、当院でも、入院患者さんへのリハビリテーション医療に加え、訪問リハビリテーションも始まるうとしています。まだまだ未熟ではございますが、地域に根ざした質の高いリハビリテーション医療に寄与すべく努力してまいります。



name
リハビリテーション科
専攻医
谷口 真也 先生



日常生活を取り戻す
作業療法士

作業療法では、基本的な身体動きだけでなく、日常生活でのあらゆる動作や物事に対して、元の生活に戻れるよう援助しています。例えば『座れるようになったけどお箸が使いにくい、トイレに自分で行って用を足したい』など、生活場面で必要となるあらゆる動きのリハビリテーションを主にを行います。

作業療法士の考える日常生活とは『その方にとって毎日の動作すべて』としています。そのため、身の回りの動作だけでなく、復職が必要な方など、患者さん一人ひとりにあわせて、可能な限り社会復帰や参加が出来るように、ご相談やお手伝いを行っています。ご自身のお体、力だけでは困難な作業がある場合には、作業療法士が『自働具』と呼ばれる様々な道具を作ったり、または工夫することにより、患者さんが望む作業を



獲得できるようにお手伝いをしています。

また、作業療法士はお体の怪我や障がいに対してだけでなく、同時に発症してしまった物忘れや記憶障がいなどに対してのリハビリテーションも行っています。加えて当院の作業療法では、『手外科外来』として手の怪我に対しても専門的な治療を実施しています。

column

専門家が
義足や装具を作る

装具外来

毎週、水曜日と金曜日の午後は、義足などを作る義肢会社2社(川村義肢、東名ブレース)から義肢装具士が来院し、医師の指示のもと、義足・装具・足底板などの作製を行っております。

木曜日は、フランスベッドの担当者が来院し、高性能の人工装具であるNESS L300や、NESS H200などを試すこともできます。リハビリテーション科を受診していない患者さんも、装具外来を受診することができますので、ご相談ください。



言葉や嚥下の問題を解決 言語聴覚士

言語聴覚士とは、病気や事故などで、言語聴覚・発声・発音・認知などの機能を伴う、言葉によるコミュニケーション機能が損なわれた患者さんに、自分らしい生活を構築できるような支援する専門職です。また、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応しています。

言葉によるコミュニケーションの問題は、脳卒中後の失語症、聴覚障害、声や発音の障害など多岐に渡ります。言語聴覚士はこのような問題の本質や、問題が起こるメカニズムを明らかにし、検査・評価を実施して、患者さんに合わせ必要に応じたアプローチ方法を検討し、訓練を行っていきます。当院においては、主に脳血管リハビリテーション・廃用症候群リハビリテーション、がん患者リハビリテーションを行っています。

近年では、言語機能と同じくらい摂食・嚥下機能に対するリ



ハビリテーションが求められています。リハビリテーションを必要としている患者さんに対しては、早期に介入し、適切な評価・訓練を実施していきます。他職種と情報共有を行いながら、患者さん一人ひとりのニーズに合わせて、チームでの問題解決を目指しています。



大学病院のクオリティでデイケアを デイケアセンター オープン！

2019年3月、関西医科大学総合医療センターの通所リハビリ施設「関医デイケアセンター・滝井」が、当院南館3階のリハビリテーションセンター内に開設されました。昨年、関西医科大学に続き、全国的にも珍しい大学病院が運営するリハビリ特化型施設として当院でもこの春よりスタートしました。

当センターは要支援者、要介護者のかたがたを対象に、より自立した日常生活が維持できるよう支援することを目的としています。単に身体機能回復に留まらず、心身ともに明るく、自分らしい生活を送ることができるようサポートします。また当センターは、短時間のリハビリ特化型施設で、利用時間は1時間（リハビリ時間は40分）です。利用者の方は、医療機関で使用している設備機器を使用でき



るだけでなく、新たに導入した最新のトレーニング機器もご利用いただけます。医療から介護へ、円滑な連携を目指して、当院リハビリテーション科医師や理学療法士、作業療法士が利用者の方の症状・病態・目標に合わせたプログラムを提供いたします。

快適なりハビリを支える仲間たち
スムーズな受付を心がけます

医療事務2名・医療クラーク1名、看護師1名、マツサージ師1名で、受付業務を行っています。医療事務・クラークは、窓口対応、電話対応、書類作成補助・郵送などを行っています。看護師は、診察補助、緊急対応を行っています。またマツサージ師は、セラピスト補助・物理療法準備・送迎などを担当しています。快適に治療を受けて頂けるように、日々業務にあたってまいります。

送迎や清掃を行う 看護助手

病棟よりリハビリ室までの送迎を担当しています。患者さんの状態を確認し、安全に各セラピストや病棟まで送り届けられるよう心がけております。またリハビリ室や物品をいつも清潔に保てるように消毒・清掃も担当しています。



ご自宅での療養をサポートします 訪問看護ステーション

2019年1月に、関医訪問看護ステーション・滝井、関医ケアプランセンター・滝井が開設されました。

訪問看護に携わる看護師が病院と連携することにより、院内での治療と、退院後の看護をシームレスに繋ぐことが可能となります。これにより、これまで自宅復帰が困難であった入院中の患者さんでも、退院しご自宅に戻って医療が受けられるようなコーディネートすることができるようになります。

訪問看護を通じて私たちは積極的に地域に向き、出会った人とのつながりを大切にしながら、地域の方々のお役に立てるよう努力してまいります。

医療や介護、地域をつなぐケアプラン

昨今、医療と介護連携や、地域包括ケアシステムの構築が必要とされています。医療と介護は



切っても切り離せないものであり、患者さんを地域の関係機関が協力して、支えていく時代になっていきます。

私たちは、地域住民の皆様が、たとえ介護が必要な状態になっても、少しでも健康でいきいきと、安全で快適な生活が続けられるようにサポートします。「大切な人を受診させたい病院へ」のモットーに、地域の皆様より「大切な人を任せたい」と思っていたできるように、訪問看護ステーションとともに努力してまいります。

column

入院中の方へ

嚥下体操・健康体操を 放映します！

最近、病気ではないけれど、時々むせる、何もないところでもつまずく・なんていることはありませんか？入院中は特に体を動かさないと衰えていく感じがすると思われる方もおられるのでは？そんな方に朗報です！入院患者さんが視聴できる当院専用チャンネルで、リハビリテーション科スタッフが時間をかけて作成した嚥下体操・健康体操を放映することが決定しました！無理のない範囲で適度に体を動かして、入院中の運動不足解消に是非お役立てください。

すぐできる

健康体操

健康維持・転倒予防を目的に、当院リハビリテーション科医師・理学療法士が作成しています。病室や待ち時間、ご自宅で簡単に行えますので、ぜひ行ってみましょう。

Special Lesson 交互にグーチョキパー 腕と頭のトレーニング



① グー ② チョキ ③ パー

腕は胸の高さで！リズムよく！“グ〜チョキパ〜”と声を出して！

運動方法

- ① 両手で“グーチョキパー”を行きましょう
- ② 両腕は交互に“伸ばす”⇄“曲げる”
- ③ グーチョキパー×5セットが目標



STEP UP!!
足踏みも併せて
脳トレ!!

安心！充実！ 大学病院での出産

新しい命を生み出す妊娠は、うれしく楽しみである一方、不安や心配なこともたくさんあるかと思えます。当院では、陣痛・分娩・回復まで1室で対応できるLDRR室にて出産していただくため、出産後も移動することなく同じベッドで休んでいただけます。ご希望があれば、出産時にお父さんやお子さん、ご両親に立ち会っていただくことはもちろんのこと、赤ちゃんと一緒にいられる母児専用個室を用意しているため、出産後すぐに赤ちゃんと同じ部屋で過ごすことができ、スキンシップをたくさん図ってもらうことができます。

安心で充実した出産を提供できるように、医師・看護師・助産師が一丸となって出産をサポートいたします。

ご両親をサポートする 教室を開いています

お母さんの快適なマタニティライフのお手伝いとして、当院では両親教室とベビーマッサージ教室を開催しています。どちらもお母さんだけでなく、お父さんも一緒に参加していただくことができます。

両親教室では、妊娠をきっかけに日頃の生活を振り返ることで、妊娠中や出産後をより健康に過ごしていただくための学習だけでなく、親になる心構えや、子育ての仲間作りの場としても活用していただくことができます。妊娠中からだの変化や、栄養と食事のポイント、出産のしくみや産後の回復、そして育児と母乳栄養な



〔両親教室〕

どを、分かりやすくお話しします。

また、ベビーマッサージ教室「よちよちクラブ」では、専門の資格を取得した助産師がインストラクターとなり教室を開催しています。ベビーマッサージは、お母さんと赤ちゃんの大切なスキンシップのひとつとして、専用のオイルを使いながら行うタッチケアです。その効果は、赤ちゃんの血行の促進、筋肉の発達を促し、また赤ちゃん自身のリラクゼーション効果も期待でき、赤ちゃんとお母さんにも愛情ホルモンであるオキシトシンというホルモンが分泌されることで、ストレスの緩和に繋がる効果が期待できます。



〔ベビーマッサージ教室〕

4D超音波診断装置が導入されました！

NEW

当院にも、ついに最新の「4D超音波診断装置（4Dエコー）」が導入されました。通常、健診で使用する超音波は、画像が平面的に表示される「2D超音波」と呼ばれるものですが、これに対し、「3D超音波」と呼ばれるものは、立体的に赤ちゃんの観察ができますが、静止画像になります。

今回導入された4D超音波診断装置では、立体的に赤ちゃんの観察ができるだけでなく、赤ちゃんの動きをリアルタイムで見ることができ、赤ちゃんがあくびをしたり、手足を動かしている様子を見ることで、より身近に感じることが出来ます。

4D超音波検査の最適な検査時期は、およそ24週から32週頃（出来れば28週前後）です。ご希望の方は担当医または看護師までお申し出ください。検査料は通常の超音波検査料金に3000円が追加となります。撮影された画像をカラープリントしてお渡しいします。なお、羊水の量や赤ちゃんの位置・向き、胎盤やへその緒の位置などによってうまく撮れない場合や、混雑時にはご希望にそえないこともございますのでご了承ください。



整形外科に「手外科センター」が開設されました

「手外科センター」は手外科を専門にしたスタッフにより、上肢（上腕を含めた肘関節以下から指先まで）の外傷や疾患でお困りの患者さんを治療するために設立されました。整形外科・形成外科、リハビリテーション科と連携することによりチーム医療が行える体制をとっております。

当院で完結するだけでなく、附属病院（枚方）・当院・香里病院の関西医大3病院で連携をとり、手外科の診療・研究・教育を進めております。3病院にはそれぞれ経験あるハンドセラピストが在籍して、術前後リハビリなどを担当しています。上肢外傷全般の初期治療から、関節リウマチ・末梢神経障害・麻痺手の再建などあらゆる上肢の疾患に対応できるように、手外科専門医4名を中心とし、協力してベストな治療のためにチーム治療を行っています。

ごあいさつ

私は、手外科の中でも特に四肢の麻痺、重度外傷後の再建を中心に研究および臨床活動を行ってきました。亡き師匠の一人である先生の教えで、「眼は世界へ向け、手は患者さんへ、足は地域に。」をモットーにしております。最近では、高度の手指関節の拘縮に対して創外固定を用いた治療を行い、国内外へ知見を発表しました。手が痛い・しびれる・動かないなどお困りの患者さんがいらっしやいましたら、最新の診断と治療方法を提供できるよう精進いたします。



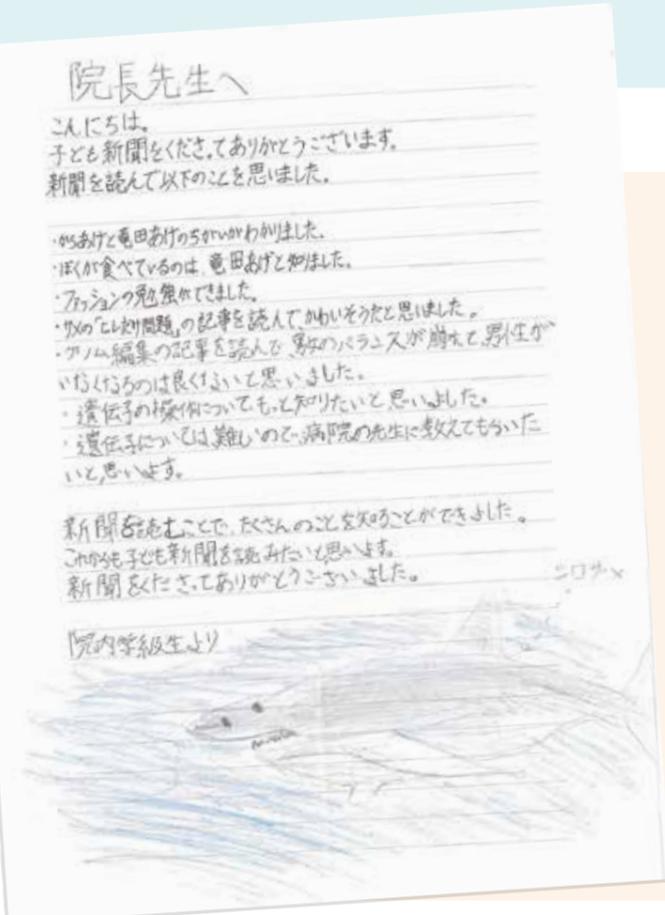
手外科センター長
浜田 佳孝
（整形外科講師）

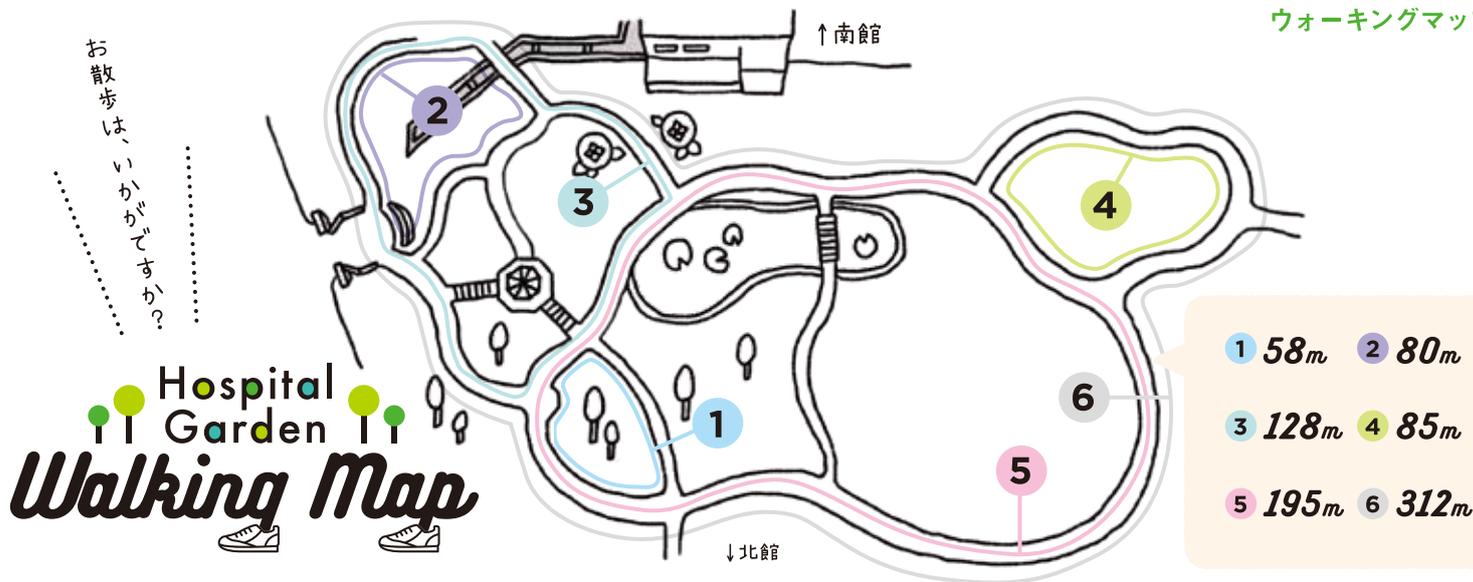
HOT NEWS

「子ども新聞」を設置しています！

当院では、話題のニュースからスポーツやファッションなどのエンターテインメント、学習対策まで幅広く掲載する「子ども新聞」を小児科外来に設置しています。

通院中の子どもさんから大変好評をいただいております。このたび病院長あてにお礼のお手紙が届きました。





大学病院クオリティの看護やリハビリテーションを提供いたします。

関医訪問看護ステーション・滝井

関医デイケアセンター・滝井

[お問い合わせ] 06-4397-7640

[お問い合わせ] 06-6993-9502

営業時間

月曜日～金曜日 9:00～17:00
第1・3・5土曜日 9:00～13:00



ナンプレとは数字を配置するという意味の「ナンバープレース」です。9×9の四角形のマス目(合計81マス)にヒントを手がかりにして、1～9の数字をルールに従って書き込んでいくパズルです。

- 1 タテのどの列にも1～9の数字が1つつはいるようにしてください。
- 2 ヨコのどの列にも1～9の数字が1つつはいるようにしてください。
- 3 太い線で囲まれたエリア(タテ×3ヨコ3の四角形)にも1～9の数字がはいるようにしてください。

※解答は当院ホームページに掲載しています。

※Copyright(C)2015 TORU TAKEUCHI

			9		5	4		
2						3		
6	4		3			1	7	
				7	6			
1						5	4	
3				8				7
4		7			9			1
	2							9
	1			6				